

世界の結核、日本の結核

2018年におけるわが国の全結核患者届け出率は、人口10万対12.3になりました(2019年8月現在)。しかし、未だに年間1万5千人以上の方が結核を発症しており、患者数からすると、わが国最大の伝染病の一つです。下図で示された通り、他の先進工業諸国と比べるとその率はまだ高く、近年の年間結核患者数減少率のままだと、結核低まん延国とされる人口10万対10以下のレベルに達するのには、2020年半ば以降になると推定されます。わが国における結核患者は、高齢者層と都市部における社会的困難層との2つの人口集団に偏在してきており、患者さんの必要に応じた、よりきめ細かなケアが必要となっています。また、若年層においては、外国生まれ結核患者の割合が50%を超しており、外国生まれ結核患者への対応も必要となっています。

空気感染する慢性呼吸器疾患である結核を早期に撲滅するためには、各患者の必要に応じて効率的な結核対策を忍耐強く、今後も継続して実施していかなければなりません。

